

史跡 入江・高砂貝塚（高砂貝塚）

入江・高砂貝塚（高砂貝塚）（紀元前約 900 年）は、付近の集落の墓地として機能していたと考えられている大型の墓地遺跡です。考古学調査および一部の発掘により、貝塚と多くの土坑墓がある墓地の存在が明らかになりました。この遺跡は公開されており、貝塚と墓穴の場所の表示が用意されています。この遺跡に関する情報は、入江・高砂貝塚館 [\[リンク\]](#) で入手できます。

複雑な葬儀の証拠

この遺跡は、縄文時代（紀元前 13,000 年～紀元前 400 年）の後になるほど、埋葬の儀式がますます複雑なものになっていったという証拠を提示しています。竪穴式墳墓の形状は似ており、死者の手足は一定の角度で曲げられ、ほとんどの頭部は北西の方角に向けられた状態で、ほぼ全く同じ姿勢で埋葬されていました。ほとんどの墓穴で、土器や石器、他の副葬品が発見されました。また墓地内では、環状の組石も見ついています。そこには複数の土偶と、赤い顔料で満たされた壺が入っていました。7 か所の墓地跡で赭土の痕跡が見つかり、葬儀に用いられていたことが示唆されています。埋葬前には、赭土の粉が散らかっていた可能性があります。

保存状態の良い遺体

日本の土壌は酸性であることから、先史時代の墓穴で人の遺体はほとんど見つかっていません。それにもかかわらず、高砂貝塚では、多くの骸骨がそのまま発見されています。ここでは、死者は貝塚の中の穴に埋葬されました。そこにあった大量の骨と貝殻からの炭酸カルシウムが、遺体の保存に役立ったと考えられています。

より多くのものを見てより多くのことを学ぶ

高砂遺跡では、銚先や鹿の角から作ったその他の魚獲り道具など、他にも製作物が発掘されています。これらは、近々の入江・高砂貝塚（入江貝塚） [\[リンク\]](#) で見つかった品々とともに、入江・高砂貝塚館 [\[リンク\]](#) に展示されています。入館料が必要です。基本情報の一部は英語で提供されています。